

日常生活⑤

ホットケーキも！ハンバーグも！フライ返しを上手に使おう

焼きものの練習用模型



- 対象
 - 見えにくさがあり調理活動に難しさのある児童生徒
 - 手指にまひや不自由がある児童生徒
- ねらい
 - 調理で焼きものを行う際に必要な技術（食材を安全にフライパンの中に入れる、上手にひっくり返す、皿にのせるなど）を練習し、習得できるようにする。
- 「自立活動」の6区分
 - 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成
 - 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
- 提供
 - 附属視覚特別支援学校 氣仙 有実子

教材の特徴

- ・片面にボタンを付け、ボタンを上にした状態からひっくり返したときに、ボタンがあたる音で、うまくひっくり返ったかを分かるようにしました。
- ・重みをつけるために、布の中にジェル状の保冷剤を入れました。
- ・調理に必要な技術を、火を使わない状態で繰り返し練習することができます。



用意する物・材料

- ・布（2種類の色）
- ・ボタン（視覚障害のある児童生徒が音でひっくり返ったことを確認するために使います。なくても構いません）
- ・ジェル状の保冷剤
- ・両面テープ

【作成方法】

- ・1枚の布の中央にボタンを付け、2枚の布を中表にして縫い合わせます（保冷剤を入れる部分をあけておきます）。
- ・縫い合わせた布を表に返し、保冷剤を入れます。保冷剤は中で動かないように、両面テープを保冷材の数か所に貼り、中で固定します。
- ・開いていた部分を縫い合わせて、出来上がりです。



使い方・実践例

- ・実際に調理を始める前に、火を使わない安全な環境で調理に必要な技術を練習します。
- ・フライパンにボタンを上にした状態で模型を置き、フライ返しや箸、トングなどでひっくり返す練習を繰り返します。
- ・模型を肉や魚に見立て、フライパンの中に入れて、出来上がったものをフライパンから皿の上のせたりする練習を行います。



🎵教材についてもっと知りたい🎵

- ・本教材は視覚障害の児童生徒が、フライ返しの使用方を習得するための練習用教材として考えました。見えない状態でひっくり返す技術は、とても難しいものですが、繰り返し練習することで、コツがつかめてきます。
- ・視覚障害以外にも、調理に慣れていない全ての児童生徒に有効です。
- ・家庭科、技術・家庭、自立活動、生活単元学習など、調理を扱う場面で幅広く使うことができます。事前学習にも適しています。
- ・見立てる食材に合わせ、形や重さを変えて数種類作成しておくといいです。